



高橋 啓輔
Takahashi Keisuke

湯原に生まれ、湯原に帰る

元禄元年（1688年）から続く湯原温泉の旅館「油屋」。高橋啓輔さんは、物心ついたころから家業を手伝っていたそうです。当時から、大きくなったら自分はこの仕事を継ぐんだろうと考えていたそうで、高校も商業科に行き、商売や経理を勉強。高校卒業後は、宿泊業の企業に就職したそうです。「お客さんはどういふものを目的に求めているかなど、働きながら勉強させていただきました」と話します。箱根などで約1年間勤務した後、19歳の時に湯原に帰ることに。「働き手の高齢化が進み、仲居さんもそろそろ仕事が難しいと聞いたのもあり、このタイミングで帰ろうと思ったんです」

真庭人

MANIWA BITO

と湯原に帰ってきた理由を教えてくださいました。
旅館青年部の復活、そしてこれから

湯原には「旅館青年部」という団体があります。しかし、若手が少なく、しばらく休部していたそう。そういったところに、高橋さんを含む各旅館の若い世代が、ここ数年で帰って来ており、今年ついに活動を再開。「若手でお互いの状況などの話をできる場を設けて、活動しています」と話します。「ありがたいことに部長をさせてもらっているのですが、みんなの意見を聞きながら、湯原に来たお客さんに少しでも楽しんでもらえるようなイベントなどを企画運営していきたいと思っています」とやる気を見せます。今後の目標は、湯原温泉を他の有名温泉地に肩

笑顔で接客



4代目三井彦四郎
役を務める



高橋 啓輔 さん(湯原温泉)

湯原温泉生まれ、湯原温泉育ち。旅館青年部長。毎年恒例の夏祭り、はんざき祭りで今年から4代目「三井彦四郎」役を務める。車やバイクが好きで、趣味はドライブ。休みのときには、真庭のまだ自分の知らない場所を見て回っている。

を並べるくらいに存在にすること。「岡山といえば湯原だろというくらいになればうれしいです。僕ら旅館青年部の若い世代は、いろんな職業から帰って来て、趣味や考え方もさまざまなので、それを生かしてお客さんに楽しんでもらうとか、また湯原に来ていただくとか、そういうのが増えれば、地域としても盛り上がっていくのかなと思いますね。高橋さん、そして湯原温泉の若者たちの今後に注目です。

